

地質ニユース



NO. 5 1953

地質調査所

物

理

探

査

物理探査部長 飯田 汲 事

世界

各国は石油や石炭・金属や非金属鉱床・地下水・温泉・地熱・堰堤基盤等各種の

と強化されるならば、一層わが国独特の物理探査法の発展が期待されましょう。

地下資源や地質の調査に物理探査法を有効に活用して、素晴らしい成果を挙げています。

物理探査は最近数年間に探査器械と技術の発展によつて、地上の調査はもとより航空機による空中からの調査、抗井を利用して行く地中での調査等立体的の調査が確立されてきてまして、能率的でしかも高い精度の調査が遂行され探査は浅所から深所へ、単純な構造から複雑な構造や微細な構造へとその可能範囲を逐次拡大してきています。

これは一に無線工学の進歩による探査器械の発達と多年の研究に基く探査技術の向上によるものでありまして、わが国の物理探査もこの線にそつて、電気・磁気・地震・重力・放射能等の各種の方法が適切に用いられるようになり、いろいろな方面においてその成果も大いに挙げられるようになりましたが、探査器械の近代化と、探査方法の発展のための基礎的調査研究部門とが、一段



飯田 部長

われわれは地質技術者と混然一体となり地質現象の解明に意を注ぐべきは勿論のこと、精巧な器械を駆使した調査法と、その結果の有効適切な解釈をなしうる有能な物理探査技術者の育成の重要なことが考えられます。

最近官公庁、会社等各方面で物理探査の設備や技術者を持つ傾向が見えますが、技術者は一朝にしては作り得ないものでありますから、さらにその感を深くいたします。

物理探査法によつて平原地帯は申すまでもなく、海上その他利用度の広い地域、ひいてはわが国全土にわたる物理探査図 (Geophysical map) が作成されるようになり、地下資源や地下水、土木地質等各部門の研究調査、開発に地質図と共に有効に広く利用される日が、一日も早く来るようになることを念願してやまない次第であります。